

# 平成27年度 学校保健統計（学校保健統計調査報告書）（広島県分）の概要について

## 1 調査の概要

- (1) 調査対象：国立，公立，私立の幼稚園，小学校，中学校，中等教育学校，高等学校の満5歳から17歳までの児童等の一部（抽出調査） ※中学校には中等教育学校（前期課程）を含む  
抽出率 発育状態：全幼児，児童及び生徒の 4.2%（14,244人）  
健康状態：全幼児，児童及び生徒の 22.5%（76,858人）
- (2) 調査事項：児童等の発育状態（身長，体重及び座高）及び健康状態（疾病・異常等の有無）
- (3) 調査時期：学校保健安全法による健康診断の結果に基づき，平成27年4月1日から6月30日の間に実施

## 2 調査結果の主な特徴

- (1) 発育状態調査  
男子は，身長（平均値）及び座高（平均値）の全ての年齢において全国平均を下回る。  
女子は，身長（平均値）及び座高（平均値）の全ての年齢において全国平均を同程度若しくは下回る。
- (2) 健康状態調査  
幼稚園，中学校及び高等学校では，「裸眼視力1.0未満の者」の割合が最も高く，小学校では，「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高い。  
「むし歯（う歯）」の者の割合は，いずれの学校段階においても前年度を下回り，全国値を下回る。

## 3 調査結果の概要

### (1) 発育状態調査

#### ア 身長

身長（平均値）は，前年度より，男子は8歳，9歳，10歳，12歳，13歳，14歳及び16歳で高く，女子は5歳，7歳，9歳，10歳，13歳，14歳，15歳及び16歳で高くなっている。

また，男子及び女子の全ての年齢において全国値を下回った。

さらに，親世代である30年前の昭和60年度調査と比較すると，最も差がある年齢は，男子では12歳で3.2cm，女子では11歳で1.3cmそれぞれ高くなっている。（表1）

表1 年齢別 身長の平均値 (単位:cm)

区分		男 子						女 子					
		平成27年度				昭和60年度		平成27年度				昭和60年度	
		A		B		A		B		A		B	
		広島県	前年度差	全 国	全国差	広島県	A-B	広島県	前年度差	全 国	全国差	広島県	A-B
幼稚園	5歳	109.9	△ 0.4	110.4	△ 0.5	110.3	△ 0.4	109.1	0.1	109.4	△ 0.3	109.4	△ 0.3
	小学校	6歳	116.1	0.0	116.5	△ 0.4	115.5	0.6	114.9	0.0	115.5	△ 0.6	115.4
小学校	7	121.9	0.0	122.5	△ 0.6	121.2	0.7	121.2	0.6	121.5	△ 0.3	120.6	0.6
	8	127.7	0.1	128.1	△ 0.4	127.0	0.7	126.7	△ 0.2	127.3	△ 0.6	126.4	0.3
	9	133.1	0.3	133.5	△ 0.4	132.3	0.8	132.9	0.2	133.4	△ 0.5	131.7	1.2
	10	138.3	0.2	138.9	△ 0.6	136.8	1.5	139.5	0.1	140.1	△ 0.6	138.9	0.6
	11	144.4	0.0	145.2	△ 0.8	142.2	2.2	146.2	△ 0.3	146.7	△ 0.5	144.9	1.3
中学校	12歳	152.5	0.8	152.6	△ 0.1	149.3	3.2	151.1	0.0	151.8	△ 0.7	150.3	0.8
	13	158.9	0.1	159.8	△ 0.9	156.8	2.1	154.2	0.2	154.9	△ 0.7	153.8	0.4
	14	164.5	0.5	165.1	△ 0.6	163.1	1.4	155.8	0.4	156.5	△ 0.7	155.5	0.3
高等学校	15歳	167.5	△ 0.6	168.3	△ 0.8	167.0	0.5	156.7	0.3	157.1	△ 0.4	156.2	0.5
	16	169.2	0.8	169.8	△ 0.6	169.1	0.1	157.2	0.4	157.6	△ 0.4	157.1	0.1
	17	169.8	0.0	170.7	△ 0.9	169.0	0.8	157.3	△ 0.3	157.9	△ 0.6	156.9	0.4

## イ 体 重

体重(平均値)は、前年度より、男子は9歳、12歳、13歳、14歳及び15歳で重く、女子は5歳、6歳、10歳、12歳、13歳、15歳及び17歳で重くなっている。

さらに、親世代である30年前の昭和60年度調査と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で3.0kg、女子では12歳で1.1kgそれぞれ重くなっている。(表2)

表2 年齢別 体重の平均値

(単位:kg)

区 分		男 子						女 子					
		平成27年度				昭和60年度		平成27年度				昭和60年度	
		A		B		A		B		A		B	
		広島県	前年度差	全 国	全国差	広島県	A-B	広島県	前年度差	全 国	全国差	広島県	A-B
幼稚園	5歳	18.6	△ 0.2	18.9	△ 0.3	18.8	△ 0.2	18.4	0.1	18.5	△ 0.1	18.4	0.0
小学校	6歳	21.1	△ 0.3	21.3	△ 0.2	20.9	0.2	20.8	0.3	20.8	0.0	20.5	0.3
	7	23.8	0.0	23.9	△ 0.1	23.1	0.7	23.2	△ 0.1	23.4	△ 0.2	22.7	0.5
	8	26.6	△ 0.3	26.9	△ 0.3	26.0	0.6	26.0	△ 0.2	26.4	△ 0.4	25.5	0.5
	9	30.1	0.4	30.4	△ 0.3	29.1	1.0	29.5	0.0	29.7	△ 0.2	28.5	1.0
	10	33.0	△ 0.7	34.0	△ 1.0	32.1	0.9	33.9	0.3	33.9	0.0	33.2	0.7
	11	37.6	0.0	38.2	△ 0.6	35.6	2.0	38.4	△ 1.1	38.8	△ 0.4	37.4	1.0
中学校	12歳	44.1	0.9	43.9	0.2	41.1	3.0	43.6	0.5	43.6	0.0	42.5	1.1
	13	49.4	1.3	48.8	0.6	46.8	2.6	47.3	0.7	47.3	0.0	46.5	0.8
	14	54.0	0.6	53.9	0.1	52.2	1.8	49.4	△ 0.1	49.9	△ 0.5	49.1	0.3
高等学校	15歳	59.0	0.2	59.0	0.0	57.0	2.0	51.8	1.6	51.5	0.3	50.8	1.0
	16	60.3	△ 0.2	60.6	△ 0.3	59.3	1.0	52.2	△ 0.3	52.6	△ 0.4	52.1	0.1
	17	61.4	△ 1.2	62.5	△ 1.1	59.8	1.6	52.8	0.1	53.0	△ 0.2	52.7	0.1

## ウ 座 高

座高(平均値)は、前年度より、男子は5歳、12歳、13歳、14歳及び16歳で高く、女子は5歳、6歳、7歳、14歳及び16歳で高くなっている。

また、男子及び女子の全ての年齢において全国値を同程度若しくは下回った。

さらに、親世代である30年前の昭和60年度調査と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳で1.4cm、女子では11歳及び17歳で0.7cmそれぞれ高くなっている。(表3)

表3 年齢別 座高の平均値

(単位:cm)

区 分		男 子						女 子					
		平成27年度				昭和60年度		平成27年度				昭和60年度	
		A		B		A		B		A		B	
		広島県	前年度差	全 国	全国差	広島県	A-B	広島県	前年度差	全 国	全国差	広島県	A-B
幼稚園	5歳	61.7	0.1	61.8	△ 0.1	62.3	△ 0.6	61.3	0.2	61.3	0.0	61.7	△ 0.4
小学校	6歳	64.6	0.0	64.8	△ 0.2	65.0	△ 0.4	64.2	0.1	64.4	△ 0.2	64.7	△ 0.5
	7	67.3	△ 0.1	67.6	△ 0.3	67.4	△ 0.1	67.0	0.1	67.2	△ 0.2	67.1	△ 0.1
	8	70.1	0.0	70.2	△ 0.1	70.0	0.1	69.7	0.0	69.9	△ 0.2	69.8	△ 0.1
	9	72.4	0.0	72.6	△ 0.2	72.4	0.0	72.5	0.0	72.7	△ 0.2	72.2	0.3
	10	74.7	△ 0.1	74.9	△ 0.2	74.2	0.5	75.7	0.0	75.8	△ 0.1	75.5	0.2
	11	77.4	0.0	77.7	△ 0.3	76.6	0.8	79.2	△ 0.2	79.2	0.0	78.5	0.7
中学校	12歳	81.3	0.2	81.4	△ 0.1	79.9	1.4	82.0	△ 0.1	82.1	△ 0.1	81.6	0.4
	13	84.8	0.3	85.1	△ 0.3	83.7	1.1	83.6	△ 0.1	83.9	△ 0.3	83.7	△ 0.1
	14	87.7	0.1	88.2	△ 0.5	87.0	0.7	84.8	0.2	84.9	△ 0.1	84.5	0.3
高等学校	15歳	90.1	△ 0.2	90.4	△ 0.3	89.2	0.9	85.3	△ 0.1	85.5	△ 0.2	85.0	0.3
	16	91.2	0.5	91.4	△ 0.2	90.4	0.8	85.7	0.1	85.7	0.0	85.6	0.1
	17	91.6	△ 0.1	92.1	△ 0.5	90.4	1.2	85.7	△ 0.2	85.9	△ 0.2	85.0	0.7

## (2) 健康状態調査

### ア 主な疾病・異常の被患率等の順位

疾病・異常を被患率等別にみると、幼稚園、中学校及び高等学校では、「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」の者(処置完了者を含む。以下同じ。)の順となっている。小学校では、「むし歯(う歯)」の者の割合が最も高く、次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」の順となっている。(表 4)

表 4 主な疾病・異常の被患率等順位

(単位:%)

幼稚園			小学校			中学校			高等学校		
順位	調査項目	割合	順位	調査項目	割合	順位	調査項目	割合	順位	調査項目	割合
1	裸眼視力1.0未満の者	28.9	1	むし歯(う歯)	48.8	1	裸眼視力1.0未満の者	54.4	1	裸眼視力1.0未満の者	X
2	むし歯(う歯)	28.8	2	裸眼視力1.0未満の者	30.8	2	むし歯(う歯)	31.5	2	むし歯(う歯)	49.9
3	鼻・副鼻腔疾患	5.8	3	鼻・副鼻腔疾患	9.5	3	鼻・副鼻腔疾患	10.3	3	鼻・副鼻腔疾患	9.3
4	歯列・咬合	4.6	4	歯列・咬合	6.0	4	眼の疾病・異常	6.6	4	歯肉の状態	6.7
5	耳疾患	4.4		歯・口腔のその他の疾病・異常	6.0	5	歯列・咬合	5.5	5	歯列・咬合	5.2
6	眼の疾病・異常	4.0	6	眼の疾病・異常	5.7	6	心電図異常	4.2		歯垢の状態	5.2
7	アトピー性皮膚炎	3.2	7	耳疾患	4.5	7	歯肉の状態	4.1	7	眼の疾病・異常	4.9
8	口腔咽喉頭疾患・異常	1.9	8	アトピー性皮膚炎	4.3	8	蛋白検出の者	4.0	8	心電図異常	3.8
9	その他の疾病・異常	1.7	9	心電図異常	3.9	9	歯垢の状態	3.8	9	蛋白検出の者	3.6
10	その他の皮膚疾患	1.4	10	ぜん息	3.6	10	耳疾患	3.3	10	アトピー性皮膚炎	2.1

(注)1 学校における健康診断の受検者等のうち、疾病・異常有の項目を学校種別毎に割合の高い順に上位から10位まで表示している。

2 サンプル数が少ないものはXで表示している。

### イ 主な疾病・異常等の推移

「むし歯(う歯)」の者の割合は、いずれの学校段階においても前年度を下回っている。また、全体的に減少傾向にある

「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合は、他の学校段階と比較すると、小学校は高く推移している。

「アトピー性皮膚炎」及び「ぜん息」の者の割合は、他の学校段階と比較すると、高等学校は低く推移している。(表 5)

表 5 主な疾病・異常等の推移

(単位:%)

区分	幼稚園					小学校					中学校					高等学校				
	平成23年度	24	25	26	27	平成23年度	24	25	26	27	平成23年度	24	25	26	27	平成23年度	24	25	26	27
裸眼視力1.0未満の者	X	X	X	18.3	28.9	26.7	27.9	27.7	26.7	30.8	X	51.2	X	X	54.4	X	53.1	62.3	41.3	X
むし歯(う歯)	41.8	37.6	34.0	31.9	28.8	50.6	51.7	51.1	49.7	48.8	40.2	36.3	38.3	35.0	31.5	52.4	49.7	48.8	51.0	49.9
鼻・副鼻腔疾患	5.5	4.8	7.0	8.9	5.8	12.4	12.2	14.0	12.8	9.5	8.0	9.8	9.3	10.7	10.3	9.4	8.4	9.5	6.1	9.3
アトピー性皮膚炎	3.1	3.5	3.7	3.2	3.2	3.6	3.9	2.9	3.7	4.3	2.6	3.1	3.2	3.6	2.9	2.8	1.5	2.3	2.3	2.1
ぜん息	3.0	1.3	3.3	2.1	0.4	3.7	3.3	3.2	3.4	3.6	1.7	2.6	2.2	3.6	2.7	1.2	1.1	1.2	0.8	1.1

(注) サンプル数が少ないものはXで表示している。

## ウ 主な疾病・異常等の全国値との比較

「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、公表されている幼稚園、小学校及び中学校のうち、幼稚園及び中学校で全国値を上回っている。

「むし歯（う歯）」の者の割合は、幼稚園が28.8%、小学校48.8%、中学校31.5%、高等学校49.9%となっている。いずれの学校段階においても全国値を下回っており、特に中学校では9.0ポイントの差がある。

「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合は、幼稚園及び高等学校で全国値を上回っている。

「アトピー性皮膚炎」の者の割合は、いずれの学校段階においても同程度若しくは全国値を上回っている。

「ぜん息」の者の割合は、いずれの学校段階においても全国値を下回っている。（表6）

表6 主な疾病・異常等の全国値との比較

（単位：%）

区 分	幼 稚 園			小 学 校			中 学 校			高 等 学 校		
	広島県 A	全国 B	全国差 A-B									
裸眼視力1.0未満の者	28.9	26.8	2.1	30.8	31.0	△ 0.2	54.4	54.1	0.3	X	63.8	-
むし歯（う歯）	28.8	36.2	△ 7.4	48.8	50.8	△ 2.0	31.5	40.5	△ 9.0	49.9	52.5	△ 2.6
鼻・副鼻腔疾患	5.8	3.6	2.2	9.5	11.9	△ 2.4	10.3	10.6	△ 0.3	9.3	7.3	2.0
アトピー性皮膚炎	3.2	2.5	0.7	4.3	3.5	0.8	2.9	2.7	0.2	2.1	2.1	0.0
ぜん息	0.4	2.1	△ 1.7	3.6	4.0	△ 0.4	2.7	3.0	△ 0.3	1.1	1.9	△ 0.8

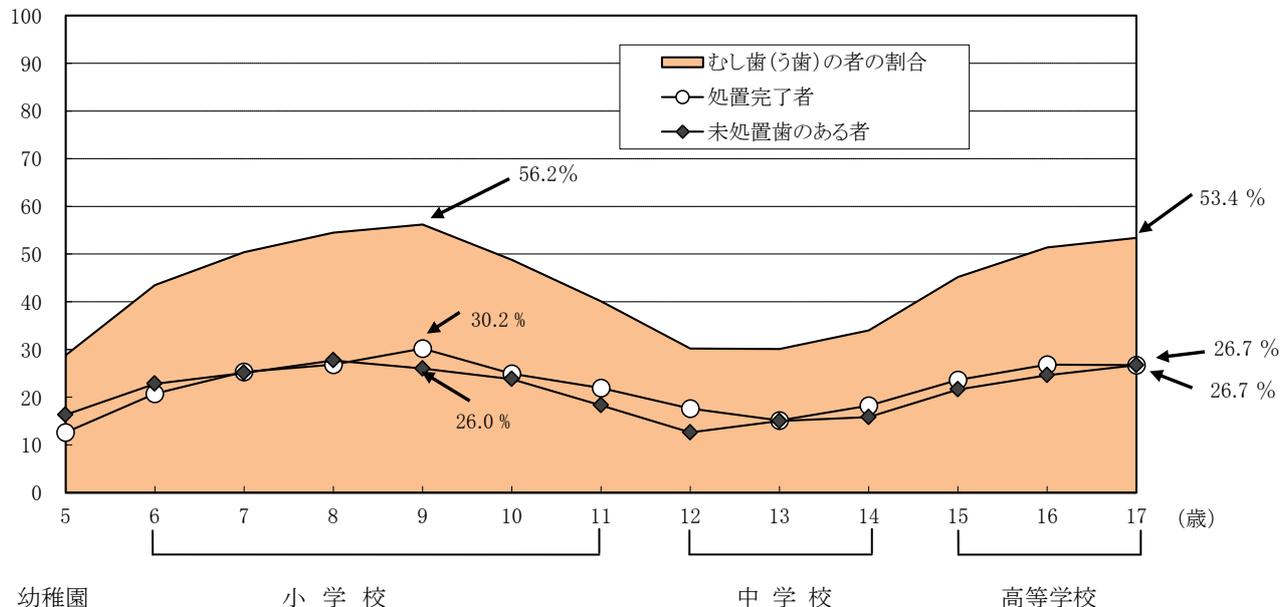
（注）サンプル数が少ないものはXで表示している。

## エ むし歯（う歯）の状況

「むし歯（う歯）」の者の割合を年齢別にみると、9歳が56.2%と最も高くなっている。また、7歳及び9歳から16歳については、処置完了者の割合が未処置歯のある者の割合を上回っている。（図）

（%）

図 むし歯（う歯）の者の割合等



この報告書の内容は、文部科学省及び広島県のホームページでも提供しています。

「学校保健統計調査」及び「広島県学校保健統計調査」で検索してください。

文部科学省 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm)

広島県 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/toukei/gakkohokentoukeityousa.html>

問い合わせ先 広島県総務局統計課 消費経済・教育統計グループ 電話 082-513-2534 (ダイヤル)

